

# 4 技能を統合的に活用する英語指導のあり方<sup>1</sup>

— 中学校英語授業における技能統合活動の実践 —

## A Study on Effective Skill-Integrated Activities for Japanese Junior High School Students

異 徹

Toru TATSUMI

Keywords: 英語教育, 学習指導要領, 技能統合, 4 技能の総合的な育成

### 1. はじめに

中学校・高等学校英語科の学習指導要領改訂 (2008, 2010) において、「4 技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成する」ことは、改訂の基本方針の柱の一つとされている。日常生活で行われるコミュニケーションでは、母語、外国語を問わず、単一の技能だけで完結することは少なく、複数の技能が関連することが普通であることから技能統合の必要性は理解できる。そこで、高島 (2011) が指摘するように、学習者は、「技能統合型言語活動」を通して、現実場面で行われるコミュニケーションを教室内で疑似体験することが必要となる。技能統合の授業を通して、4 技能の総合的な育成をめざすのである。

本稿では、中学校において複数技能を統合して行う授業実践を具体的に提案し、技能の統合により期待される英語学習における効果について考察する。

### 2. 技能統合の授業は、学習指導要領の“New Face”？

中学校新指導要領 (2008) では、「言語活動」の中で、技能統合について次のように具体的に指導事項を示している。下に示した指導事項のうち下線を付した部分のみが、今回の改訂で新たに加えられた内容である。

「聞くこと」 — <「聞くこと」+「話すこと」の統合>

- ・ 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。

「話すこと」 — <「聞くこと」「読むこと」+「話すこと」の統合>

- ・ 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。

「読むこと」 — <「読むこと」+「話すこと」「書くこと」の統合>

- ・ 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

「書くこと」 — <「聞くこと」「読むこと」+「書くこと」の統合>

- ・ 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。

(平成20年版中学校学習指導要領「2 (1) 言語活動」より)

このことから、技能統合に関する指導事項のほとんどが、旧指導要領において取り上げられていた事項と大きな違いがないことがわかる。つまり、技能を統合した授業や言語活動は、今回の改訂による“New Face”ではなく、以前から示されていた指導事項であり、今回の改訂では、これまでの指導を継続し、さらにそれらを充実させることが求められていることがわかる。

### 3. 技能統合の授業で目指すもの

技能統合の授業では、単に複数の技能を並べてつなげれば、学習者にとって有益であるということ

ではない。各技能を「有機的に関連付ける」ことが重要であり、実際のコミュニケーションに近い言語活動が教室内に作り出され、学習が促進されるように意図した技能統合が求められているのである。

また、旧指導要領における言語活動に比べ、一步踏み込んだ言語活動を行うことが求められる。たとえば、今回の改訂では、小学校英語活動の実施を踏まえ、「聞くこと」「話すこと」の目標から「慣れ親しむ」という事項が除かれた。これにより、中学校での「聞くこと」「話すこと」を統合した言語活動では、「慣れ親しむ」段階を超えた言語活動が求められている。さらに、高校の「英語表現Ⅰ」では、「即興で話す」言語活動がその内容に示されており、その間をつなぐ中学校では、聞いたり読んだりした内容に即応して話すためのコミュニケーション力の基礎を養う技能統合授業が目指されることになる。その他の技能統合においても、授業時数の増加や扱う語彙の増加もあり、これまでの指導に比べ、より深まりのある言語活動の充実が図られなければならない。

#### 4. 「書くこと」「話すこと」を統合した授業

技能の統合を意識するしないにかかわらず、これまでも最も頻繁に自然な指導の流れとして行われていたのが、「書くこと」と「話すこと」の統合であろう。たとえば、スピーチの原稿を準備し（「書くこと」）、それをもとにして英語でスピーチを行う（「話すこと」）などはその例である。中学校段階では、準備せずに即興で英語による「発表」を行うことは、学習者にとって非常にハードルが高く、負担が大きい活動となる。たとえ、短い英文でヒントを出題するクイズのような活動でも、多くの場合は英語でヒントづくりを行い、準備し（「書くこと」）、それを、口頭練習したあとに実際にクラスの前で出題する（「話すこと」）など、「書くこと」と「話すこと」の技能を統合し、ステップを踏んで実践している。

ここでは、まず、「準備→練習→発表」という指導の流れの中で、「書くこと」と「話すこと」を統合した『What am I? クイズSHOW』の実践について述べる。さらに、「準備→練習→発表」という指導の流れの中に「読むこと」と「書くこと」、「聞くこと」と「話すこと」を統合させた『お勧め旅行プランを売り込もう』の実践について述べる。

##### 4.1 『What am I? クイズSHOW』の実践

中学1年生でも実施可能な「書くこと」と「話すこと」を統合した授業である。5, 6名の生徒で1グループを作りクイズの出題者となり、英語でヒントを出していく。ヒントを聞いた同級生は、出題者が何について説明しているのかを当てる活動である。様々な活動のバリエーションが考えられるが、ここで紹介するのは、各グループでクイズを持ち寄り、クラス全体で「クイズSHOW」を行う活動である。出題グループ内では、それぞれが作ったクイズ（「書くこと」）を持ち寄り、どの問題をグループの出題問題にするか選択する。司会者(MC)およびヒントの発表者の役割を決め、ヒントは1人につき1つずつ発表するように分担する。出題グループは、それぞれのセリフやヒントを書いて準備し、同級生は解答用紙にWhat am I?の答えを書いて解答するという活動である。出題グループを順に交代して、どのグループも一度は出題者となるようにする。問題作りからクイズSHOWの実施も含め3～4時間かけた実践である。下の例は、クイズSHOWの進行の様子である。

MCの生徒：Welcome to our quiz show! Please listen to us. We have five hints. S1, you go first!  
 Student 1：Hint No.1. I am in convenience stores. You can buy me at convenience stores.  
 Student 2：Hint No.2. I am triangle. My shape is triangle.  
 Student 3：Hint No.3. I am very soft. (with gesture)  
 Student 4：Hint No.4. My colour is white outside.  
 Student 5：Hint No.5. I have some tuna, mayonnaise, tomato, lettuce, cucumber, egg or ham inside.  
 MCの生徒：What's the answer? Write down the answer, please. (解答記入の間)  
 Who knows the answer?  
 挙手したS：Is it a sandwich?  
 MCの生徒：That's right! Well done!

上記の例は、クイズの問題を「書いて」準備し「話して」伝える活動であり、「準備→練習→発表」という流れで進行していく。複数の技能が順を追って直列に並ぶタイプである。

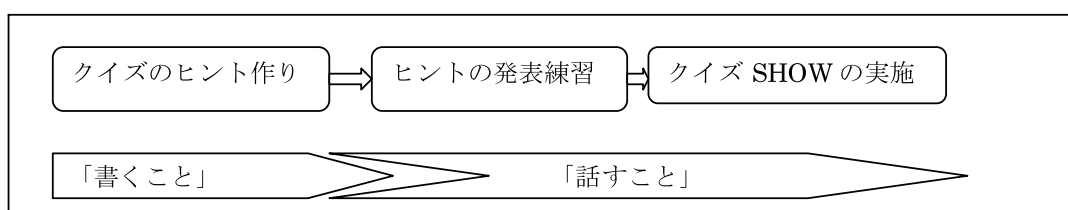


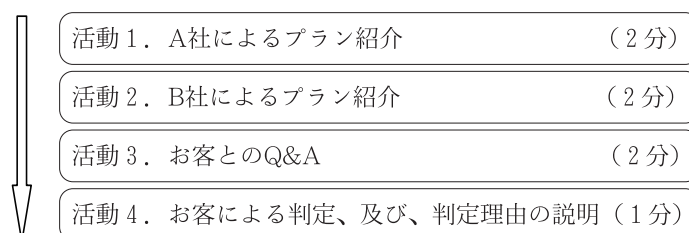
図1 『What am I? クイズSHOW』の技能統合

これに対して、次に紹介する例は、「書いて」準備し、「話して」伝える「準備→練習→発表」という流れではあるが、「書いて」準備する段階に「読むこと」が統合され、さらには、「話して」伝えた内容について生徒同士が「問答したり、意見を述べ合ったり」することで、「聞くこと」「話すこと」を統合させた実践である。

#### 4.2 「お勧め旅行プランを売り込もう」の実践

岐阜県大垣市立星和中学校の中学3年生を対象とした「お勧め旅行プランを売り込もう」の実践である。星和中学校は、校区内の小学校2校と連携して英語教育の小中連携に関して研究開発に取り組んできた学校である。

「お勧め旅行プランを売り込もう」は3人一組みで行われる活動である。3人のうちの2人が旅行会社の社員役となり、それぞれの旅行会社の「お勧め旅行プラン」を売り込み、残り1人のお客役の生徒は2社のプランを聞き、どちらのプランが良いかを決めるという活動である。活動の流れは図2のようにまとめられる。この活動をグループ内で役割を交換しながら3セット行い、グループ内の全員が売り込み役とお客役を行うようにする。



(同様の手順で、さらに2セット実施)

図2 『お勧め旅行プランを売り込もう』活動の流れ

旅行会社A社, B社を代表する2人は, それぞれの会社が推薦する海外旅行プランの英語によるプレゼンを行う。プランの特徴ができるだけお客に伝わるように, 見学ポイント (places to see), 食事 (food to eat), 現地での活動 (things to do) などの情報を含めて, 聞き手の興味を引きながら2分間の持ち時間内で説明を行う (活動1, 2)。残りの1名は, お客役で, 2社の説明を聞いたあとに, A社, B社にプラン内容について自由に質問し (活動3), プレゼンから得た情報とそのあとのQ&Aの内容から, より魅力的だと思われるプランを選ぶ (活動4)。下の例は, フランスの旅行プランを紹介した生徒の発話例である。

Hello! I am from ○○ travel. Today I will show you a good travel plan. OK? (OK.) Do you know France? France is famous country in Europe because there are many things to see. Do you know this? (エッフェル塔の写真を示して) (No, I don't.) This is Eiffel Tower. Eiffel Tower is the famous tower in the world. I want you to go up to the top of the tower. You can eat a special dinner course there. Special dinner course! OK? (OK)

Do you like sweets? (Yes, I do.) This is a macaron. (マカロンの写真を指して) Macaron is a very delicious and colourful sweets. If you want you can eat it. It is made by a special pâtissier (パティシエ). This is a beef steak, large beef steak. If you want it, you can eat it and you will be very happy. OK?(OK) Do you like fashion? (Yes, I do.) This is the dress made by Louis Vuitton. Do you know Louis Vuitton? (Yes.) Louis Vuitton is a famous fashion brand. So I'm sure you like it. Do you know this? (モンサンミッシェルの写真を示して) (No, I don't.) This is Mont-Saint-Michel. Mont-Saint-Michel is a very famous world heritage site. If you want you can buy a macaron there. I am sorry time up! Let's go to France! I am sure you like it!

( ) 内は, お客の生徒の発話

この活動に至るまでの一連の指導は, 10数時間かけたプロジェクトであるが, 「準備」(「書くこと」) → 「練習」 → 「発表」(「話すこと」) という具合に, 技能統合においては先に紹介したクイズの活動と同様の過程をたどる。しかし, 「旅行プラン」の活動では, 発表の内容を「書いて」準備する段階で, 「読むこと」との統合も図られている。下は, 生徒の「売り込みの原稿」の例であるが, 原稿作りに当たり, 教科書の本文を参照するように指示されていることが分かる。教科書の当該の課は, 様々な国の見所を紹介する内容であり, 生徒が原稿を作成するにあたって格好のモデルとなる教材であった。教科書内容の学習が進行すると併行して, 生徒は旅行プラン紹介の原稿の内容や英語表現を充実させていった。さらに, 「Speed Input」という音読練習用のワークシートにも, 売り込みに使える関連した内容や表現を扱い, 生徒が原稿作成をする上での材料となっている。

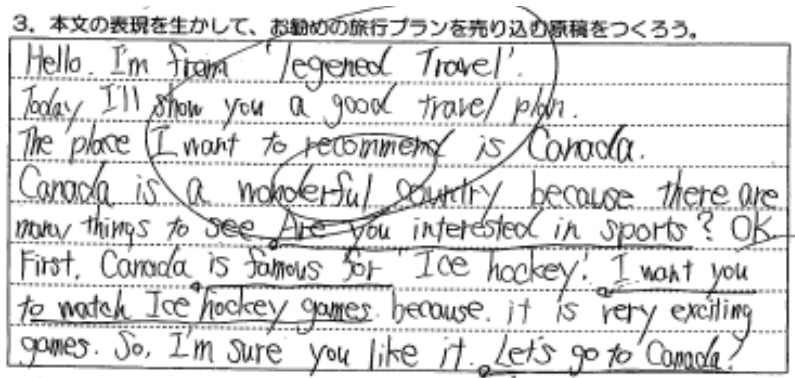


図3 生徒の原稿の作成例

生徒は, 教科書本文や「Speed Input」を読み, その中から自らの発表内容に生かせそうな表現を

見つけ出し、原稿に加えていくように教師は指導している。つまり、原稿を準備する段階で「読むこと」と「書くこと」を統合し、より豊かな内容と、より伝わりやすい英語表現になるように、教科書本文などの英文を読ませる工夫を加えているのである。

さらに、A社,B社のプレゼン後の「お客とのQ&A」では、お客がプランの内容について興味を持ったこと、さらに知りたいことなどを旅行社に質問し、追加情報を得る。ここでのお客と旅行社のやりとりは「聞くこと」と「話すこと」が統合された活動である。しかも、この質疑応答は、全くの即興であり、学習者はそれまでに身につけた英語力を総動員して、コミュニケーションを図ることとなり、新学習指導要領で求められる一步踏み込んだ言語活動となっている。「お勧め旅行プランを売り込もう」の技能統合について、図4のようにまとめることができる。

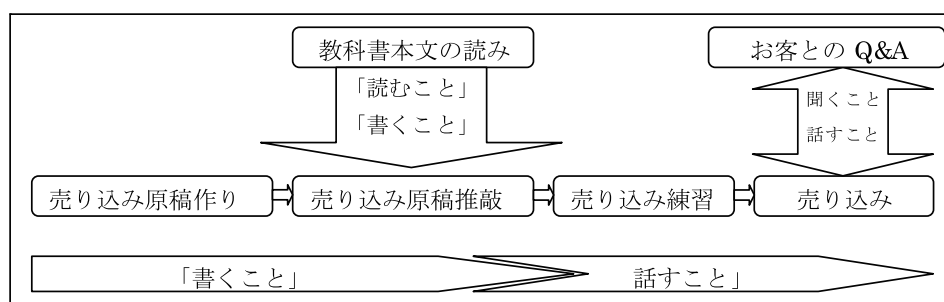


図4 『お勧め旅行プランを売り込もう』の技能統合

## 5. 「読むこと」「話すこと」を統合した授業

### 5.1 「世界面白ニュース」プレゼンテーション

世界の珍しい話題や驚きのニュースを扱うテレビ番組が人気を得ているようである。奇想天外な出来事や日本ではあまり馴染みのない話題について、映像を交えたレポートに興味を持つ視聴者が多いのであろう。そこで、それと同様の活動を教室内で英語を用いて行おうとしたのが「世界面白ニュース」のプレゼンテーション活動である。学習者は、英字新聞を読んで「面白ニュースを」探し出し、その内容を英語でわかりやすく紹介する。



(英字新聞を読む)

具体的には、学習者は、①山積みされた多くの英字新聞の中から、見出しや写真などを頼りに「面白ニュース」となりうる記事を求めて新聞を読む。②「面白ニュース」の記事が見つかったら、聞き手がわかりやすいように内容を要約し、発表原稿を書いてまとめ、③記事内容のプレゼンテーション練習に取りかかる。④プレゼンテーションでは、言葉だけではなく内容理解を助ける視覚的な情報も同時に提示して発表し、聞き手の理解を促すような工夫を行う。⑤発表後には、聞き手との間で英語による質疑応答をしたり、記事の内容に対する感想を述べ合ったりする。

この活動では、読んだ内容を書いてまとめ、話して発表するという具合に、複数の技能統合がなされる。この活動における技能統合を学習の流れとともに整理すると、図5のようにまとめられる。



(英語によるプレゼンテーション)

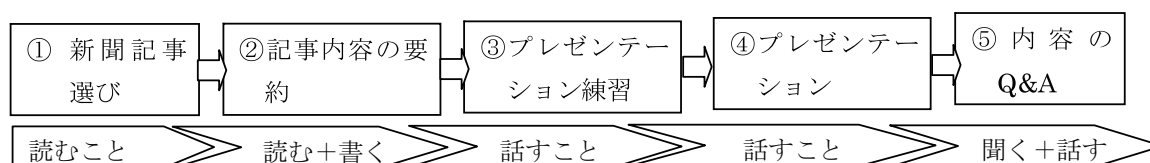


図5 「世界面白ニュース」プレゼンテーションの技能統合

発表者が選んだ記事の多くは、驚きの情報が含まれ、聞き手は興味を持って楽しんで聞いていた。ただし、これは、中学生を対象とした実践ではなく、大学の英語授業で行っている活動の一つである。しかし、読み物の選択や活動方法に工夫を加えることにより、この活動を中学生対象の同様の活動へと移行することが可能である。以下は、「読むこと」「書くこと」「話すこと」を統合した発表の活動(①～④)と、その後の「聞くこと」「話すこと」を統合した英語による即興的なやり取り(⑤)を行う一連の活動を、中学生対象の活動へ「リフォーム」する手立てを提案するものである。

5.2 「読むこと」と他技能の統合が目指すもの

大学生を対象にした「世界面白ニュース」プレゼンテーションの活動で、①「記事選び」②「内容の要約」で行われる「読み」を比較すると、①で自らが内容理解をするために読むのに対して、②では、内容を誰かに伝えるための「読み」が行われることになる。つまり、要約するための「読み」では、表面的な理解にとどまらず、書かれた内容を整理してより深く理解することが必要とされる。また、英語表現にも十分注意を向ける必要がでてくる。このように、「読むこと」と「書くこと」「話すこと」の技能統合によって「読み」の質が向上し、英語による発信の下地づくりが行われることになる。

③では、聞き手の理解度を考慮した発表となるように準備が進められる。④のプレゼンテーションでは、一方通行の情報伝達にならないよう、聞き手の理解を確認しながらの発表や、難しいと思われる表現の言い換え、ジェスチャーや視覚情報の活用など、聞き手に理解可能なアウトプットを提供するよう発表者が工夫をする良い機会となる。その上で、⑤プレゼンテーションの内容について、質疑や感想のやりとりを行うことにより、即興性を必要とする「聞くこと」「話すこと」の統合がはかれる。

複数の技能を統合して「世界面白ニュース」プレゼンテーションの一連の活動を行うことにより、上記のような効果が期待できる。同様の活動が中学生にも可能となれば、中学生の英語の熟達度に合った「読み」の質が高まり、英語で発信する力の養成へとつながっていくのではないかと期待する。

5.3 中学校英語教科書に見るプレゼンテーション

現行6社の中学校英語教科書(2012年度版)では、英語で「発表しよう」「紹介しよう」「スピーチしよう」という英語によるプレゼンテーションを扱ったページが多く見られる。たとえば、「日本文化」は、複数の教科書で中学3年生のプレゼンテーション活動の題材として取り上げられている(表1)。

表1 中学校英語教科書に見るプレゼンテーション活動例

教科書・学年	課	トピック
日 本 文 化 紹 介		
CB 3	U5 Activity	日本の食べ物や道具について説明してみましょう
NC 3	L5 Mini-project	日本紹介
NH 3	Multi+1	日本文化紹介を書こう
OW 3	Writing Tips	日本文化を紹介する文を書こう
SS 3	My Project 8	伝統文化を説明しよう
TE 3	Chapter 1 Project	日本文化を紹介しよう

(CB=Columbus, NC=New Crown, NH=New Horizon, OW=One World, SS=Sunshine, TE=Total English)

例えば、SS 3 My Project8の「伝統文化を説明しよう」という題材では、生徒が直前の課で茶道や伝統的な遊びなどの日本文化についての題材を学習したあと、地域の伝統的な行事や習慣につい

て調べ、英語の発表原稿を書き、最終的に英語による発表を行うという設定となっている。つまり、先の大学生の活動と同様、「英語で発表」を行う活動は中学の英語教科書でも扱われている課題なのである。ただ、異なるのは、「世界面白ニュース」の活動が、読んだ内容を英語で発表するのに対して、中学校英語教科書の「伝統文化紹介」の活動は、読んだ文章を参考にして、生徒自らが考えた内容を英語で発表するという点である。

#### 5.4 読んだ内容を英語で伝える「サマリー・テリング」

##### 5.4.1 自己表現活動の指導過程リフォーム

中学生の「伝統文化を説明しよう」の活動は、伝統文化を扱った「本文の理解」から「自己表現」へつながる、一見スムーズな活動の流れである。しかし、実際に指導してみると、生徒にとって「理解」と「表現」の間には隔たりがあり、教科書内容は理解できていても、自分で紹介しようとする内容はなかなか英語で表現できないという生徒は少なくない。そこで、そのギャップを埋めるために、読んだ内容を要約（サマリー）して話して（テリング）紹介する、いわば、「サマリー・テリング」とでも呼ぶ活動を行うことは効果的である。具体的には、既に学習した教科書本文とは別の「日本文化」についての英語の文章を読み、その内容の「サマリー・テリング」を行う。それによって、段階的に自己表現活動に向けた学習を進めていけるようになる。

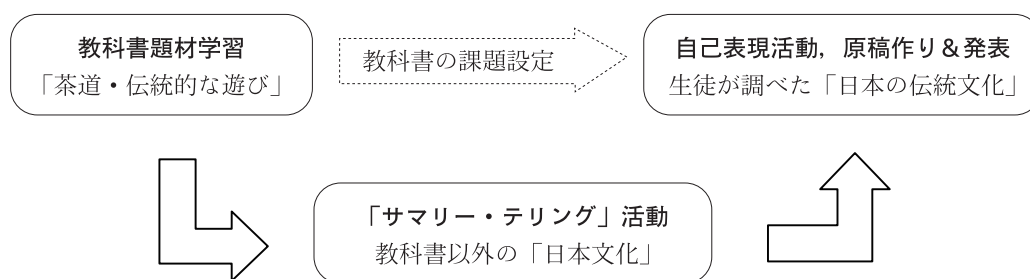


図6 「伝統文化を説明しよう」のリフォーム案

##### 5.4.2 中学生用「読み物教材」の発掘

大学生の活動では、様々な読み物の活用が可能であった。しかし、中学生の英語の熟達度に合った読み物教材を手軽に調達することは簡単ではない。教師やALTの自作教材やウェブ上の使用可能な教材を丹念に探すことも考えられるが、ここでは、生徒の英語の熟達度に合い、しかも、手軽に活用できる既製の「読み物教材」として、「検定教科書」の使用を提案する。通常は、6社から出ている検定教科書のうち、1社のみを使って指導しているが、この活動では、採用している教科書以外の5社の教科書、さらには、改訂前に使用していた旧版の検定教科書教材の中で「日本文化」について扱っている課を「読み物」教材として活用して読み、内容を要約して「書いて」まとめ「話して」伝える教科書内容の「サマリー・テリング」を行うのである。それにより、「世界面白ニュース」の活動と同様に、英語で発信することを意識した「読み」「書き」を行わせ、英語によるプレゼンテーションやその後のコミュニケーションへとつなげていける。

現行版中学校英語教科書では、どれほどの課で「日本文化」について扱っているだろうか。表2からわかるように、様々な話題が数多く扱われており、読み物教材として十分な数と種類を提供できる。しかも、これらは、いずれも検定教科書の教材であり、どの教材を用いても扱われる文法事項、語彙ともに中学生に合った内容となっている。さらに、異なる学年の教材が存在し、これらの教材を生徒が自由に選んで活用すれば、自らの英語の熟達度に合った読み物が選択でき、個に応じた英語学習を進めることができる。

表2 教科書に見る「日本文化」

教科書 学年	課	トピック	内 容
NC 3	Lesson 5	Houses and Lives	日本家屋の特徴
NC 2	Lesson 4	Enjoy Sushi	様々な種類の寿司
NC 2	Lesson 5	My Dream	花火師の仕事
NH 3	Unit 2	A Fireworks Festival	花火大会
NH 3	Multi+3Challenge	Japanese around the World	和太鼓演奏家
NH 3	Further Reading	Ambassador of Laughter	英語落語
NH 2	Multi+3Challenge	Pop Stars in Japan and Korea	日韓のポップスター
NH 1	Unit 11	一年の思い出	お正月の伝統行事
OW 3	Lesson 1	Our School Trip to Kyoto and Nara	京都奈良の神社仏閣
OW 3	Lesson 6	Protecting Nature	釧路湿原
OW 2	Lesson 2	Golden Week	沖縄の文化と歴史
OW 2	Lesson 4	Robot Contest	田中久重とからくり人形
SS 3	Program 2	Volcanoes in Japan	日本の名所や史跡
SS 3	Program 5	Sushi-Go-Around in the World	回転寿司
SS 3	Program 6	Let's Talk about Things Japanese	最古の漫画。伝統玩具
SS 3	Challenge2	Mika's Visit to Kyoto	英語で茶道
SS 3	Review Reading	Japanese <i>Anime</i> Goes Abroad	日本のアニメ
SS 2	Program 11	Yui - To Share Is to Love.	白川郷の合掌造り
SS 2	Review Reading	Helping Each Other	白川郷の合掌造り
SS 1	Program 8	<i>Origami</i>	折り紙
SS 1	Review Reading	From PET Bottle to Spaceships	折り紙の工業製品への応用
TE 3	Lesson 1	Report for Our School Trip	京都奈良の神社仏閣
TE 2	Lesson 1	Japanese Sports	日本のスポーツ
TE 2	Lesson 8	Manga, <i>Anime</i> and Movies	漫画, アニメ, 日本映画
TE 1	Reading 2	An All-purpose Cloth	風呂敷

#### 5. 4. 3 中学生対象の活動へのリフォーム

これら教科書教材の幅広い活用とその内容の「サマリー・テリング」により、先の大学生を対象としたプレゼンテーション活動が、中学生を対象とした活動へとリフォームできることになる。図7に示したように、生徒は、①表2に示した教材から、自らの興味や教材の難易度により、読み物を決定し、読む。②聞き手がわかりやすいように内容を要約し、「サマリー・テリング」の原稿を書いてまとめ、③「サマリー・テリング」の準備に取りかかる。④「サマリー・テリング」では、必要に応じて内容理解を助ける絵などを同時に提示して発表し、聞き手の理解を促すような工夫を行う。発表は全体の前で行ったり、グループ内で行ったりするなど様々な形態が考えられるが、学習者の情意面へ



の配慮や学習者の活動量を増やすことを考えると「ペア活動」が有効である。ペア内で、発表者と聞き手の役割を交代しながら、パートナーを代えて、繰り返し何度もプレゼンテーションを行わせる。⑤発表後の英語によるやりとりでは、発表者が事前に準備した聞き手の内容理解を確認するQ&Aや、聞き手からの内容についての質問、発表された内容への簡単なコメントなど即興的な英語のやり取りを行う。

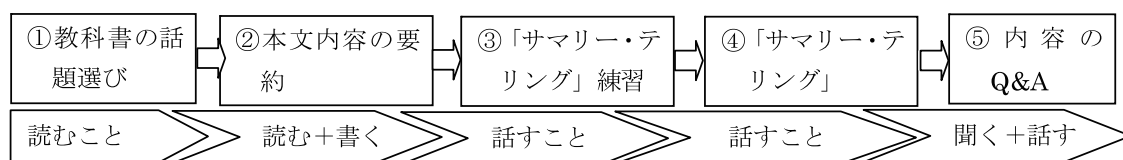


図7 「日本文化紹介」プレゼンテーションの技能統合

## 6. まとめ

ここまで、中学校英語授業における技能統合のあり方について、「書くこと」と「話すこと」や「読むこと」と「話すこと」の統合を核にした複数の技能統合を行った活動を提案してきた。

星和中学校の「お勧め旅行プランを売り込もう」の実践では、「書くこと」「話すこと」の統合に、「読むこと」、「聞くこと」も有機的に関連させることによって、学習者が主体的に英語の表現に注目し、読んだ後に自らが表現することを意識した読みが行われている。また、旅行プラン説明の後に自由Q&Aタイムを設けることで、「聞くこと」と「話すこと」が統合され、準備された発話に加え、一部分ではあるが即興的な対応を求められるような一連の学習過程が仕組まれている。これにより、単に「準備→発表」のために「書くこと」と「話すこと」結びつけた技能統合にとどまらず、実際のコミュニケーションにより近い場面で学習することを可能にした実践である。

現行版の中学校英語教科書では、各教科書とも「Project」「Activity」「Multi Plus」など名称は異なるが、生徒が英語による発信を行うことを目指したセクションを設けている。しかし、その多くが「本文の理解」から「自己表現」へ大きく飛躍する学習過程を設定していることから、「読むこと」と「話すこと」を統合させた「サマリー・テリング」の活動をその間に挟み込むことにより、段階的に自己表現活動に向けた学習を進めていけるプロセスを提案した。また、「読むこと」と他技能との統合において、中学生の読み物教材として、検定教科書を活用することにより、生徒が理解可能な多くの読み物教材を提供することができ、様々な話題に関連する語彙や表現を無理なく学び、定着させることが可能となる。

今後は、さらに中学校英語授業における技能統合活動の開発を継続するとともに、技能統合による学習の成果の検証を行っていく。

## 注

1. 本論文は、異 (2012a, 2012c) に加筆・修正を加えたものである。また、本研究は、科学研究費挑戦的萌芽研究 (平成23-25年度) (課題番号: 23652135) による初年次の研究成果の一部を報告したものである。

## 【参考文献】

- 文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版  
 —— (2010) 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』開隆堂出版  
 大垣市立星和中学校他 (2011) 「英語科におけるコミュニケーション能力の基礎を確実に身につけるための指導と評価のあり方」『教育研究開発事業 (英語教育関係) 公表会 研究紀要』  
 高島英幸 (2011) 『英文法導入のための「フォーカス・オン・フォーム」アプローチ』大修館書店  
 異 徹 (2012a) 「書くこと」と「話すこと」を統合した授業』『STEP英語情報』日本英語検定協会, 第15巻3号,

pp.48-51

—— (2012b) 「4技能を活用した「Group Work Reporting」活動」『STEP英語情報』日本英語検定協会, 第15巻4号, pp.48-51

—— (2012c) 「技能統合の授業」『STEP英語情報』日本英語検定協会, 第15巻5号, pp.48-51

**【分析に使用した教科書】**

『Columbus 21 English Course 1, 2, 3』(2012) 光村図書出版

『New Crown English Series 1, 2, 3』(2012) 三省堂出版

『New Horizon English Course 1, 2, 3』(2012) 東京書籍

『One World English Course 1, 2, 3』(2012) 教育出版

『Sunshine English Course 1, 2, 3』(2012) 開隆堂出版

『Total English 1, 2, 3』(2012) 学校図書出版